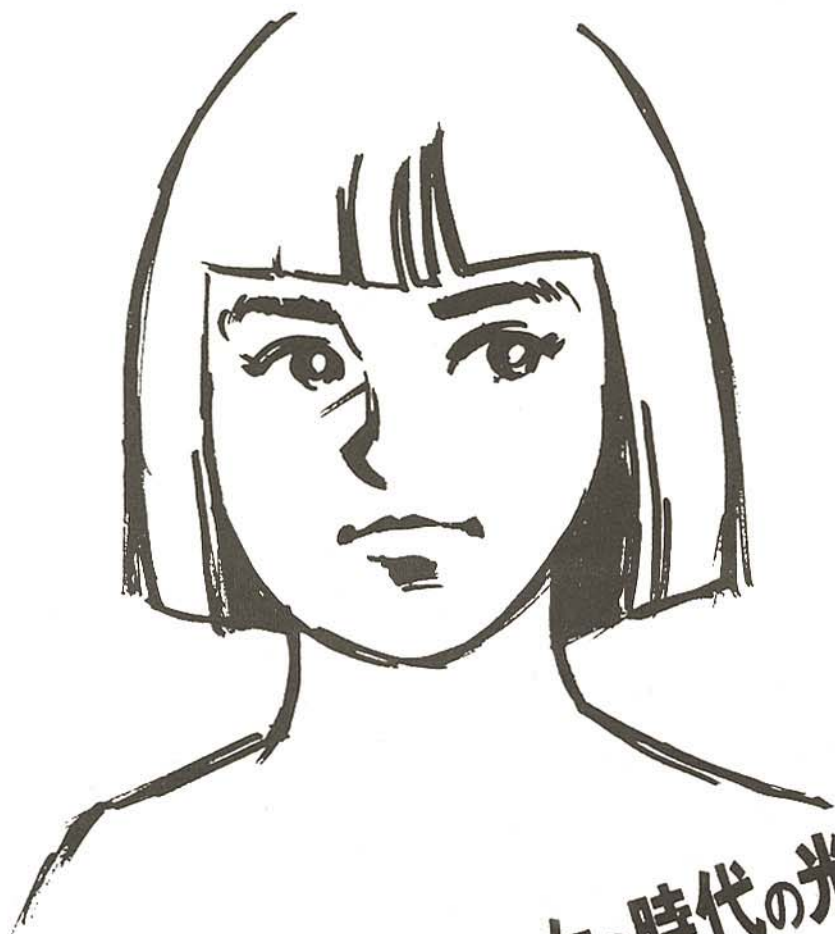


# 生活新聞

VOL.4 NO.4 1984

博報堂生活総合研究所

## 3:30

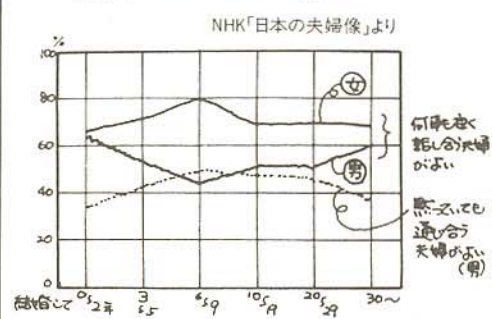


女の時代の光と影

1



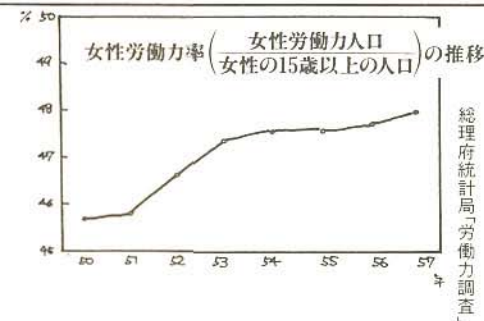
夫婦のコミュニケーションギャップ



「お見合いばんだもの働かぬけ  
ばいどしよ」と反人が言うの。  
家柄・育ちのレベルが同じで  
経済的安心があるのね。  
(24歳・OL)

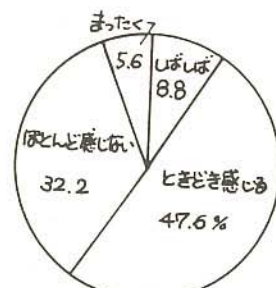
「良妻賢母の姿勢はくすしく  
ばいんどす。」  
(38歳・主婦)

「10時から2時くらいまで、毎日  
行かなくてよくて、充実した仕事  
だって。そんな仕事があれば  
俺が行ってまよ。マツタク世  
間知らずばんだから。」  
(42歳・夫)



「子供が独立しちゃったら定年後の主人の  
世話がまっている。私の一生こんぽやし  
ら。私の人生って何だったのかしら。  
そう思うとたまらぬ。何かみつけないの。」  
(36歳・高知主婦)

「今の若い方はせいにくよね。生活が  
大変だとこぼしばかり。自分のしたい  
ことや欲しいものがマンできないの  
よね。」  
(61歳・姉)



親として子供にどう対処したらよいかという不安は?

# 良妻賢母の幸せと自立への焦り。その交差点で途惑う私たちは今...

## 主婦の不安の第一は我が子の教育。やはり母ですね。

「専業主婦の不登校でマスコミとか  
人の言うことを、割と感覚的に  
素直に受け入れてしまってるから  
まっているみたいだね。」  
(24歳・OL)

「下の子供が登校拒否みたいにな  
ったんですよ。私が親だから  
ばいどしよにばいどしよ目かいて  
いたからさね。」  
(41歳・主婦)

「子はカスがいてうけど、子供に  
かかるお金と時間と心とを  
考えると子供ばいどしよとこころから  
気楽だろなってつくづく思  
うことあるさあ。」  
(41歳・夫)

「共働きで若い社員は「今日は  
僕が家事当番だから早く  
帰ります」といって怒鳴り  
つけてやるか」と思ったんご  
やね。」  
(43歳・夫)

「ママに1回は衝突ね。生理と  
同じやね。姉に「女エロエロ  
カネタタキ」と言われるワ。  
ハチキンと同じ。生感って  
こね。」  
(42歳・高知主婦)

「私は両方の立場をとってやっ  
ているつもりなんだけど、私ば  
いどしよカマンできんですよ。」  
(43歳・夫)

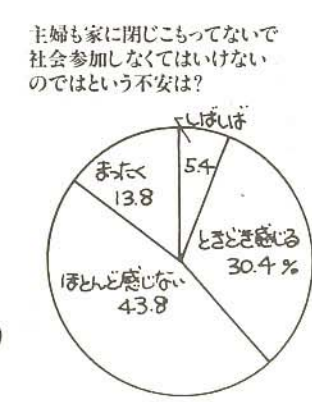
「いやいや、こねばかりは肉に  
立つ専業主婦にばいどしよや  
わやしませんさ。」  
(41歳・夫)

「女房はしゃべりばいどしよが  
ばいどしよから。「おしん」にばいど  
しよと南子役ですよ。」  
(42歳・夫)

最近では働く女性も増え、女  
性の社会参加も盛んなようです。こ  
んな女の時代でも、女性、特に専業  
主婦の心の中には不安が渦まいてい  
るようです。今日はその心のうちを  
ぶちまけて頂こうと思えます。まず  
初めにどんなことに不安を感じてい  
るかというあたりから――  
▼潜在意識ではあるかもしれないけど、  
不安で意識がぼやけてる。ウチは  
経済的満足で遅れているのね。  
でも満足足りて、なお不安というの  
はよは幸せかもしれないね。  
▼不満はいつばいあるけれどキリが  
ないので、こんな所で手をうつかなと  
いう感じね。  
▼ウチはこれから高校、大学となる  
わけですが、年々生活が苦しくなっ  
ていく実感が強いわ。このままでは  
高校へやれるのかしら。まして私立  
――  
▼金銭的なものももちろんですけど、  
炊事、洗濯が終るとすることが何も  
ない。そんな時外に出たくなくなるの。  
子供も大きくなつてくると私だけが  
社会から取り残されるって感じ。や  
はり社会と密接に結びついていたい。  
▼私もそう思ってます。新聞の求人欄を  
読みますが、年齢制限がねえ。  
▼それに子供が帰ってくる時間には  
家にいてやりたいですし。  
▼お友達は結構思い切った働きに出  
ていますが、やはりご主人や子供に  
迷惑かけてるらしいですよ。だんだ  
ん決まってお給料の中で生活を無  
駄にしないで布団でも干してた方  
がいのかなアとも思ったり。  
▼同じ働くのなら子供ができて  
続けていないと。プランクをあける  
と次に出ていく時のすい勇気が  
いらいますね。  
▼私の友人なんですがお勧めに  
たから、ご主人に甲斐性がないとい  
う。外の男性に魅力を感じてしま  
う。――  
▼それにしても子供の教育ひとつと  
つても主人と相談したいことは多い  
のにウチの専業主婦なら午前様ば  
かりなんだから。  
▼母子家庭に下宿人が帰ってくる  
みたい。でもその時間自分の好きな  
ことしてられるからそんなに不満  
じやないですよ、私は。  
▼話をしたいのうさがるのよね。  
三語夫婦だわ。お帰り、夕食は？も  
――  
▼今、離婚進行中。あれは悲劇だ  
と思っちゃったわ。  
▼これだけ情報がいっぱい入って  
くると家の中だけにはいられませ  
んよ。働かざるを得ない形でも自  
分の出番はどこかあると思いた  
い。カルチャーセンターやパートの  
広い手芸品売場に来る人は40代が  
多いですよ。やはり時間が余って自  
分も何かしなくちゃ、人に遅れを  
とりたくないって感じだと思  
う。――  
▼主婦に多い自律神経失調症も、何  
かしくなると、でも何ができるか  
しらない不安からじやないかと思  
いあたりますね。  
▼最近の若いお母様方は子供が小  
学校へ入るともう子育ては一段落と  
ばかりに働きに出ますけど、子供の  
教育という点からは問題じやないか  
しら。自分の生活も大事ですがパ  
ートに走る前に母親として目を向  
けてほしい部分がありますわ。こんな  
こというとオバカしら。  
――  
▼寝る？の三語しかないのね。  
▼主人の話は仕事の話で、私の話は  
下らないって。話さなくても夫婦は  
夫婦だと言われてすごくショックで  
思いました。  
▼ウチの主人は50歳なんです。家  
のことはお前に任せたいというタイ  
プ。40代前半の男性はずいぶん若いし、  
奥さんにも協力的ね。もって若い人

は赤ちゃんの検診にも会社休んで  
ついていくというし。私はそういう  
世の中になんてきたってこと、少しず  
つでも主人に言っておく。嫌味だ  
と承知だね。  
▼何でも私がみんなしくちやなら  
ない。全部責任あずけられてもし  
何かあったらどうするのって気分。  
▼でも子供をはさむと割と会話  
ありますよ。この前子供が一週  
間はすくすく気分だったのに、その  
――  
▼でも私達40代ともなるとこちが  
主導権握りますから、お姑さんもず  
いぶん嫁に遠慮してらるみたいね。  
▼40歳といえ最近友達との会話  
に急に老後のことが増えてきまし  
たよ。ちやうどみんな親の世話を  
する年代になったことと自分達の  
老後を重ねあわせているんです。  
▼私達の世代では親も世話になら  
うとするし、私達も面倒みなくちや  
という意識があるんですよ。  
▼でも自分の子供にはいまでもベ  
ツたりしてたくないと思わ。子  
供にとっても迷惑でしょうし。  
▼私達の課題は嫁や娘の世話にな  
りたいという年寄り世代と、なるべく  
自分の時間を大切にしたい私達の接  
点をついていくことじやないかしら。  
▼これからの年寄りは孤独に耐えら  
れないとダメだといのはホントね。  
▼でも、お嫁さんに気兼ねしないし、  
居候みたいにはなりたくないわ。私  
――  
▼私も、老立したいんです。  
ただ都会ではご主人も含めた夫婦  
同士のおつきあいで少ないです。ま  
ね、将来主人と二人っきりで顔つき  
合わせているかと思つて憂鬱。  
▼若い夫婦はおつきあいが上手ね。  
大げさなく普段着で何にもこころ  
うしないからママに行き来できる。私  
達は割と構えてお招きするって感じ。  
▼ウチの主人には主人なりのゴルフ  
でもしてという老後の計画がある  
みたい。私には一生続けようとい  
うものがまだみつからない。取り残  
されそうって不安なんです。  
▼私もゴルフ、水泳、レジャー、農園  
などいろいろやってはいますが、結  
局、自分でも何が好きなか、何を  
したいのかわからないんです。  
▼ウチは転勤が多いので、主人の  
転勤につれて私の生活が左右され  
てしまう。習い事も、もちろん仕  
事もコマギレになってしまつて。

うち話すことがなくなつてしまつた。  
子供が巣立った後の生活で大変な  
ものだとツツとしましたわ。  
▼年とって気付いたら共通の話題  
もなく、考え方も全然違う所に行  
って別々の道を歩いていくのかしら。  
▼姑とのことだつて聞こえないふり  
して逃げるのよね。だからイライラ  
は他の所では口をみつめて。  
▼のらりくらりで「こうしろ」ってパ  
シツとした答をくれないんです。  
ほんとはズルイんだから。  
――  
▼明日は我が身の老人問題。  
自分が今、嫁の立場です。同居  
がどんなにわずらわしいかわか  
りますよ。  
▼ただお母に対しては同じことでも  
姑とは全然違う反応をしようわ。  
▼いえ、かえって自分の親には手厳  
しい面がありますから、どちらと同  
居しても老いのつらさって同じよ。  
▼元氣なうちはいいけど寝こま  
れるのが不安ね。今、住宅の問題とか、  
主婦も外へ出ているからとかで、年  
寄りは病院へ入れてしまつてしま  
う。あれは一種の虐待ね。  
▼でも老人医療費が有料化してく  
ると、また在宅看護が増えると思  
うわ。  
▼私ね、自分は何とか世話をしてく  
れる人を頼めるくらいのお金を稼い  
でおきたいんです。公の年金だけで  
暮らせないという、個人年金にも  
入つて、子供に頼るまいとするだけ  
に老後の経済がほんとうに不安です。  
――  
▼アトフラワーをしてくれるんです  
が、お金をとお教えられるようには  
なれそうもない。でも今は友達同士、  
将来は老人同士で集まって教えた  
り教えられたりしてみたいな。  
▼でも夫と二人になるわけだから  
できれば夫婦で共通の楽しみを持  
たせたいわ。何とか主人にも趣味を持  
たせたいわ。夫を捨ててしまつてさ  
ういふ。――  
▼私ね、趣味はやっぱり趣味で生き  
がいはないわ。いんじやないかと思  
うんです。自分がいんじやないかと思  
うという気が張る仕事をみつけた  
いというのが願望ね。  
▼そのために今こそ外へ出な  
いけないんだけど、子供が小さいう  
ちの方が出るエネルギーがあつたわ。  
何か腰が重くなつて。ちやうどだけ幸  
せならそれでいいやというあきらめ  
と、いやこれじゃいけないという焦り  
の交差点に立っているみたい。だから  
不安だらけなんじやないかしら。  
――  
▼主にも不満があるわけばいどしよ。  
あんな大層な人ばいどしよ。  
退職金の半分をもらって私の  
自由にばいどしよ。どうと主人と  
子供のためにつくしたのばいどしよ。  
(36歳・主婦)



「教育のこととか、家計のこととか  
専業主婦もわからないわ、おま  
だしたてです。」  
(41歳・夫)

「キャバツも刻んで売ってきりね。  
パートの主婦が増えて夕食作る  
時間がないっていうのはわかる  
のばいどしよ。何かあかしているの。  
そのキャバツ刻んでいるの、  
パートの主婦ばいどしよ。」  
(36歳・高知主婦)

「母がハッピーであることが家庭  
にとって一番です。だから  
私か今、この時間を充実させる  
ことが大切だと思つてきりね。」  
(39歳・主婦)

「家のこと、特にお掃除がめんど  
ろい(発言権はあり)ません。」  
(43歳・夫)

「年をとるとボランティアでも  
時間はたっぷりあるん  
で受け入れてくれない  
のばいどしよ。少しも若いのが  
喜ばいりるんごす。」  
(64歳・姉)

「母もみていると  
現実が生まれて  
せの強さを  
ものすごく感じ  
てきりね。」  
(22歳・OL)

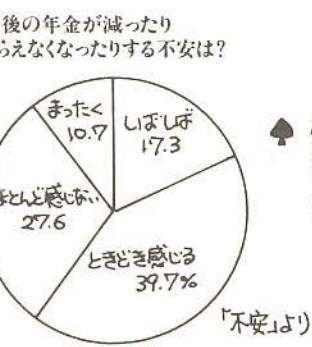


「主にも不満があるわけばいどしよ。  
あんな大層な人ばいどしよ。  
退職金の半分をもらって私の  
自由にばいどしよ。どうと主人と  
子供のためにつくしたのばいどしよ。」  
(36歳・主婦)

「若いうちから人に  
ヒキめる性格を  
つくつてきりね。  
老後のためにね。」  
(43歳・高知主婦)

「今は情報が多すぎるの。昔のよう  
なばいどしよにはなりたくなくて嫁に遠慮と  
いうか、良い嫁ぶつたりして、でもね  
どにか無理してる。そうやって自分を  
苦しめているのは私達の世代  
のね。」  
(66歳・姉)

「長く別居してから同居って不安  
です。向こうには向こうの  
生活がばいどしよ。はたして  
私の嫁ばいどしよあるのかしら。」  
(67歳・姉)



「体の緩かざり、別居していた  
わ。モヤモヤを抱えながら  
同居ばいどしよいやですもの。」  
(60歳・姉)

「女房はしゃべりばいどしよが  
ばいどしよから。「おしん」にばいど  
しよと南子役ですよ。」  
(42歳・夫)



# 女の不安樹

◆現代は「女の時代」と言われている。事実、働く女はどんどん増えている。その結果として雇用平等法の制定も近い。働く場だけでなく文化面への参画もめざましい。カルチャーセンターや美術館など、まるで女の園と化しているかのようだ。こんな暇と力を充分に持つ女達には、恐いものなどないように見える。しかし、一般の主婦は本当にそんなに翔んでるのだろうか。そんなに翔んでるのだろうか。女を取り巻く環境は今激変しつつある。ライフサイクルが変わり、求められる役割も変わり、価値観や生き方のモデルであった良妻賢母も今や失われようとしている。そうした中、回りを見まわすと翔んでる女達が輝いて見える。我が身を振り返ると、あい変らずの炊事、洗濯。私の人生はこのままでいいのかわからない。私にも出来るかしら、とは思った、翔びたい、という疑問もわく。自分でも決める人生、という手にも職もなく、知識、能力にも自信がない。子供は大きくなって巣立って行くし、夫は仕事にかまけて話も聞いてくれない。夫と二人だけの老後人生もどんどん近づいてくる。『女の時代』の影「不安」は主婦の胸に渦巻いている。

**ライフサイクルの変化** 平均寿命の伸びと少産傾向の結果、子離れ後の自分の人生は40年以上。

**情報化社会の到来** 家の中に居るだけでも降りそそぐ情報の雨。情報消化不良が心労を生む。

**核家族化** 今や核家族は全体の63%。男・姑の苦勞はない代り、子巣立ち後の夫婦の生活も考えておかないと。

**家族の崩壊** 離婚・単身赴任・母子家庭・父子家庭。妻、母、主婦の役割も問い直されている。

**価値観の変化** 社会の成熟化につれ、人並みの暮らしより私なりの生活、心の充足が求められている。

●社会に対して  
物価が上がり生活しにくくなるのでは (90%)  
犯罪・非行が低年齢化・凶悪化してくるのでは (90)  
ちよつとの挫折や逆境に耐えられない人が増える (90)

●人間として  
自分の運動不足 (67)  
私が病に倒れること (62)  
私も世のため、人のために何かしなくていいのか (61)

●妻として  
夫の健康が (67)  
夫が外で事故にあわないか (60)  
妻としての恥じらい、かわいらしさがなくなる (38)

●親に対して  
父母の健康状態 (82)  
父母はいつまでも元気でいてくれるか (77)  
父母がいつ死ぬか (72)

**モデルの喪失** 主婦の生き方も多様化。もはや良妻賢母しかできない人は取り残され感を味わう。

**働く女の増加** 「女は家にいるべき」論は少数派。経済と生きがい求めて主婦の有業率は5割を超えた。

**高齢化社会の到来** 平均寿命80歳。長い老後をいかに看取るか、いかに生きるか。

●母として  
子供のしつけは (63)  
子供はどのような人生を送っていくのか (57)  
子供にどう対処していったらいいのか (56)

●働く女として  
いつまでこの仕事を続けられるのか (55)  
職業上の知識や経験は十分なのか (42)  
収入が増えない (41)

●主婦として  
家族が事故にも合わず無事帰ってきてくれるか (65)  
家族が交通事故を起こさないか (65)  
地震・水害などの災害にあわず生活できるか (58)

●女として  
美しく老いられるだろうか (53)  
体の形が変わっていくのが (52)  
容姿が衰えていくようで (49)

●独身者の  
良い配偶者を見つけられるか (61)  
どんな人と結婚するのだろうか (58)  
いつか結婚できるのだろうか (56)

〔立場別不安ベスト3「不安」より〕  
数字はそう感じると答えた人の割合

**迷い子不安**  
日々暮しているのは何のため  
一体私は誰なの。  
自己喪失が不安を生む。

**風見鶏不安**  
一人では暮らせない相互依存  
の今の世の中。  
他人の視線が不安を生む。

**離陸不安**  
社会へ翔びたい主婦達。  
でも自分にはできるのかしら  
能力・知識への自信喪失が  
不安を生む。

**籠の鳥不安**  
家の中に閉じこめられて  
社会から遠ざけられている  
そんな焦りが不安を生む。

**たそがれ不安**  
残された時間は減るばかり  
老後の暮しも安心できない。  
やがて来る暗い予感が  
不安を生む。

**日だまり不安**  
今の幸せな暮しを守りたい。  
でも、このままでいいの？  
安穏な日々も不安を生む。



# 正常と異常との間で 揺れる不安グループ

## 正常と異常との境が膨れている

●不安をもつ人の分布



「最近、精神科の外來診療を訪れる患者さんを見ていますと、重度の方が減少し、正常と異常との境にある患者さんが増えているようです」との話が精神科医の間でささやかれている。「不安」という側面から、この正常と異常との境に位置しているとみられる「何もかも不安だらけ」という強い不安(決して異常ではない)を訴える人々の心の内を先に実施された「不安」調査の中から探ってみた。

このグループに特徴的なのは、家の中のことはきちんとやり、子供につかえる几帳面なお母さん。しかし、少しでも足もとをすくわれるような出来事があると、不安のどん底に追いやられるタイプといえそう。また、自分達の暮らしや社会の行く末に対する悲観的なものの見方、ものごとを悪い方へ、悪い方へと考える性向もこのグループに見られる顕著な特徴である。

### 不安主婦グループと平均的女性の間で差の大きい不安項目

不安項目	(A)不安グループ	(B)女平均	A-B
○家政能力は充分なのか	68%	36%	32%
○家事能力は充分なのか	69	38	31
○子供にとって良い母親か	69	38	31
○子供の手本になっているか	64	35	29
○女の魅力に乏しいのでは	71	43	28
○家のことが手抜きされていないか	67	39	28
○夫婦関係のマンネリ化	56	28	28
○愛情と信頼に満ちた家庭か	54	26	28
○子供に信頼されているか	51	23	28
○子供に尊敬されていないのでは	49	21	28

## ▶女を不安に落とし込む五つの悲劇

### 1. ベターハーフに子供を選択する悲劇

不安グループの最大の不安的的は、子供との

関わりである。夫との結婚は経済的要素が強く、まじめで、せつせと働いてくれる人を選んだ結果、結婚後間もなく夫に失望を抱き、愛情の対象を夫から子供に移しかえている。ぜがひでも子供だけは自分のモノにしておきたいと愛情を一方的に押し売りするが、子離れがもたらす愛情の対象の喪失が自己喪失と大きな不安をもたらしている。

### 2. アマチュア主婦の悲劇

このグループの第二の不安的的は、家事・家政能力に対する自信喪失である。戦前の女が嫁ぐ前には母親から花嫁修業を仕込まれ、嫁いでは、姑から主婦業を鍛えられたプロ主婦であったのに対し、今日では、いきなり主婦業に就くアマチュア主婦が多くなった。家事はそつなくこなしているもののアマチュア主婦の思い切りの悪さが災いしていつも自分の能力、したこと不安を残している。

### 3. 良妻賢母の役割を演じる悲劇

子供を溺愛し、夫の存在を忘れていたことを認めたがらない妻。その悪妻愚母?という大根役者が良き妻、良き母親、良き主婦という良妻賢母の役割を演じる。しかし、家族という聴衆の反響が読めない、怖いと不安に脅えている。

### 4. 努力出来ない悲劇

家事・家政に限らず、自分の判断、能力に自信が持てないという「離陸不安」が多いのが、このグループの大きな特徴だ。世の中、何か暗い方向へ向かっている、何をやっても無駄ではないかと不安に脅えながらも、具体的な行動に移れない女達が多い。不安事に対する努力が何等なされていない、それが更に不安を大きく掻き立てている。

### 5. ベターハーフの見つからない悲劇

結婚適齢期の25、6歳を通り過ぎ、結婚という終電車に乗り遅れた30歳独身女に、この不安グループが特に多い。女全体で、不安グループとその他の平均的グループの間で差の大きい項目をランキングすると、上位10の内半分の5つが未婚の不安グループによって占められている。結婚することによる得失と、いつまでも独身であることに対する世間の目、良い配偶者を見つけ、結婚できるか?という不安が根深いことが示されている。